

馬籠宿～妻籠宿&恵那山山行報告

【山行日】2024年5月 25～26日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 5:00

【費 用】マイカー2台 : 23,000円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:大西 飯口、
飯野、石澤、小林、嶋田、関、福島、渡邊

【コースタイム】25日:岩舟支所P5:00＝馬籠宿
P9:00/9:20～妻籠塾 11:50/13:35＝ちこり村
14:00/14:30＝月川 15:00

山行アンケートで「サムライロードを歩きたい」とのリクエストがあり、調べてみると旧中山道の馬籠宿～妻籠宿の峠道をそのように呼ぶらしい。テレビで何度か放映され、その道を歩いてみたいとリクエストしたようだ。SNSでも「サムライロード」として紹介され、外国人観光客の間で人気



があり、今では80%以上が外国人観光客と紹介されていた。「俵屋 里久」の五平餅を食べたいとのリクエストもあり、馬籠宿から妻籠宿に向かって歩いて昼食に五平餅をいただき、次の日は日本百名山の恵那山に登る計画を立てた。岩舟支所を5:00に出発し、北関東道から上信越道、中央道を走り中津川ICで降りる。国道19号線を木曽福島方面に向かい、落合の交差点を右折し県道7号線から市道を進み馬籠バス停前の無料駐車場に車を止める。

駐車場の脇にはトイレもあり、すぐ先に馬籠宿への入口がある。ここから妻籠宿まで9Kmのトレ

ッキングで、出発の準備を整えトイレを済ませたらスタートする。馬籠宿入口に立つ石柱の前で記念写真を撮り、石畳の坂道をゆっくりと登って行く。馬籠宿は尾根上に作られた宿場町で、坂道の両側に江戸時代からの茶店や宿が立ち並び、往時の旅人の思いを感じながら歩いて行く。結構急坂なので息が上がりますが、お店や建物を見ながらゆっくり歩いて行く。枡形や水車小屋など日常見られない風景に、皆さんとても楽しそう。馬籠宿を抜けた所に展望広場があり、大勢の観光客が休んでいた。



ここからは明日登る恵那山が展望でき、我々もベンチで休憩し恵那山を見ながらおやつをいただく。ここから先は山道を歩くようになり、樹林の中の街道を歩くと道路を数箇所横断し馬籠峠に着く。ここまでは急な登りが続いたが、この先は妻籠宿まで標高差430mの緩やかな下りの道が続く。

少し下ると古びた茶店に着き、ここがテレビでも必ず映される一石桁立場茶屋である。江戸時代の



のままの茶店で、中に入ると無料でお茶が振舞われ、大勢の外国人観光客が休んでいた。我々も中の長椅子に腰かけて、温かいお茶をいただき足を休めた。このさきから樹林の中の山道を下って行くと道路を横断し、男滝・女滝への道が崩落により通行禁止で右に高巻いて進む。元の中山道に合流したが、男滝・女滝へは戻るの寄らずに妻籠宿へ向かう。再度道路を横断して橋を渡ると大妻籠で、昔ながらの建屋が並んでいる。少し先に妻籠宿の石柱標識が建ち、もう一度道路を

横切ると妻籠宿に入っていく。妻籠の人達は町並みを守るために家や土地を「売らない・貸さない・こわさない」を中心とする住民憲章を作り、ここで生活しながら江戸時代の町並みと云う貴重な財産を後世に伝えるため守ってきた。妻籠の人達の努力で守られた江戸時代の町並みに、皆さん感謝しながら歩いて行く。大勢の観光客で賑わっており、旅籠や茶店、お土産店を覗きながら歩いて行く。奥まで歩き「俵屋里久」という茶店でランチをいただく。「五平餅をもう一度食べたい」と関さんがリクエストした茶店で、五平餅と蕎麦のセットをオーダーする。



皆さんも五平餅が美味しいと食べて、「もう

一本食べたいくらい」と満足したようだ。ランチが済んだら妻籠宿をゆっくり見学するが、我輩と石澤



さんはバスで車を回収に向かう。第一駐車場に13:30待ち合わせで分かれ、我々はバスで馬籠宿に行き車を回収する。妻籠宿第一駐車場へ戻ると皆さん待っていて、車に乗ったら宿へ向かう。中津川インター手前のチコリ村に寄って買い物し、試食の黒ニンニクやきんとん食パンなどいただきお土産に購入する。買い物が済んだら今宵の宿「月川」に向かい、中津川ICから中央道に入って園原ICで降りて5分程で到着する。月川は「日本一の星空」で有名な阿

智村にある一軒宿で、「花桃の里」としても有名な温泉宿である。夕食のお料理も美味しくて、アマゴの塩焼きは焼き立てが出されとても美味しくいただいた。夕食が済んだら部屋に戻り、明日の早出に備えて早めに床に就いた。

26日: 月川 3:55=広河原 P4:00/4:10~広河原登山口 4:55~1716m 地点 6:10/6:30~中間点 7:00
~恵那山 8:10/8:40~1716m 地点 10:10/10:20~広河原登山口 11:05/11:10~広河原 P11:30/11:40
=駒ヶ岳 SA12:40/13:30=岩舟支所 P16:35

朝3時に起きて外を見ると曇り空だが、雨の心配は無さそうである。お茶を淹れて昨夜いただいた



おにぎり弁当を食べ、出発の準備をして外に出る。車に乗って本谷川沿いの林道を進み、ゲート脇にある登山者用駐車場に車を止める。道路の反対側にトイレがあり、先週末はカギが掛かって使用できないと書いてあったが、今日は使用できるようになっていた。靴を履き替え、ストレッチを行ったら出発する。林道の本谷川沿いに登って行き、45分程歩くと広河原登山口に到着。河原に降りると木の橋が掛かっているが、中津川市のHPでは4月の雨で渡渉禁止となっていたが、市役所に確認する

と「自己責任で渡る分にはOKです」と言われた。橋は登山者によって修復されていて、問題なく渡ることが出来た。川を渡ると樹林帯の登りとなり、薄暗い九十九折れの道を登って行く。少し登ると尾根上に出て、登山道が明るくなってユキザサやイワカガミなどの花が見られるようになる。急な尾根歩きが続くが皆さん元気で会話が弾み、1716m地点の広場に到着。休憩して朝食を食べてない人は、ここでおにぎりを食べてもらう。くだものやゼリーも出されて、これからの登りに備えてエネルギーを補給する。ここからの登りも明るい尾根を歩き、花の種類は少ないが随所に見られ癒される。中間地点を過ぎたあたりで珍しい花を見つけ、スマホで調べるとイチョウランだと分か



る。我輩も初めて見る花で、良く観察してからカメラにしっかり収めてきた。所々樹林が切れて展望が得られるが、あいにくの曇り空で遠望が得られず南アルプスは望めなかった。それでも周りの山々は見られ、新緑の山並みがとても美しい。やがて恵那山からの稜線に出て、大きく右に折れて進み傾斜が緩くなる。ダケカンバや針葉樹の稜線を緩やかに登ると、やがて平坦で開けた恵那山山頂に着く。山頂には大きな展望檜が建つが、周りの針葉樹が大きくて檜に上がっても展望は得られない。

山頂先の恵那山神社を参拝し、無事登山に感謝して山頂に戻りおやつタイムにする。ご褒美に瀬戸内レモンブッセをいただき、沢山の菓子も出されて美味しくいただいた。若い女性のグループが



登って来て、神坂峠から登って来たと言う。

「頑張りましたね」と声を掛けると、「ハイ今度八ヶ岳の赤岳登山際に行くので、トレーニングで登りました」と元気な声が返ってきた。ゆっくり山頂で過ごし、疲れが癒えたら下山開始する。

下山は往路を戻すが、余裕があるせいか登りと景色が違うように感じた。登る時より空が明るくなり、花々も鮮やかに見え周りの山々も緑が明るく感じる。「エ～花がこんなに咲いてたっけ～」と前の方から聞こえて、皆さんも同じように感じ

ているのだなと思った。下りも皆さん超元気で、シルバー隊の方達も快調に下り付いて行くのがしんどい。登りで休憩した1716m地点で休憩して、残ったおやつをいただいたら出発する。ここからも快調に下って行き、本谷川の橋を渡って広河原登山口に着いた。ここからは林道を緩やかに下るので、皆さん会話が弾み賑やかに歩いて行く。ほぼ予定通りに駐車場に戻り、靴を履き替えた後帰路に着く。園原ICは下り線しか入れないので、国道256号線へ出て飯田山本ICから中央道へ入り、駒ヶ根SAで遅いランチをいただく。皆さん好きな物をオーダーして、混んでいるので3ヶ所に分かれて食べる。ランチが済んだらお土産をゲットし、岩舟支所へと向かう。岡谷JCTから長野道を進み、更埴JCTから上信越道を進むが渋滞も無く順調に走り、予定よりも1時間30分早く岩舟支所に帰着した。



翌日、恵那山山頂でお会いた女性グループの、上村さんから私たちの写真が送られてきた。三重県の方で「群馬・栃木の山に出かける際は、是非声掛けします」とのことで、もちろん「こちらの山に登る際は案内します」と返信した。